

私たちは地域の「よろず相談所」でありたいと願っています。



## ごあいさつ

平素は、但陽信用金庫に深いご理解と格別のお心寄せを賜り、厚くお礼申し上げます。

当金庫は、本年6月10日に創業100周年を迎えました。この大きな節目に今日まで多大なご支援とご愛顧をお寄せいただいた皆様に、改めて深く御礼申し上げますとともに、当金庫の企業理念・経営理念、令和7年度における業績や業務の内容・地域貢献活動などについて、より深くご理解いただきたく「たんの現況」－2026年版－を作成いたしました。創業100周年の特設ページも作成しております。ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度は、少子高齢化による構造的かつ長期的な人手不足に対応して、省力化・DX・ソフトウェアなどへの企業の設備投資が堅調に推移した上に、賃上げ気運の継続や政府による各種の支援策により個人消費が緩やかながら回復したことが景気を下支えしました。さらに、日本初の女性首相に就任した高市首相の「責任ある積極財政」にも景気回復への期待が高まっています。

一方、今後については、本年2月28日に始まった米国・イスラエル両国のイランへの軍事攻撃とそれに伴う原油不足が、世界経済に大きな影響を与えることが懸念されます。

当金庫は、このような不透明な社会情勢の中、地域に根差した金融機関として「長く培ってきた独自性」や「“よろず相談所”の実践」を通じてさらに深化した金融仲介機能の発揮に努めることで、地域になくてはならない金融機関となるよう取り組んでまいりました。

その結果、預金貸出金ともに大幅な業容拡大が図れ、前年度を上回る16億32百万円の当期純利益を確保することができました。これはひとえに、皆様方の温かいご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。

今後とも、これまで培ってきた独自の社風・風土を守りつつ「やさしさ、思いやり」をもって、「よろず相談所」の実践に取り組み、お取引先の一先一先に金融業務はもちろん、どのようなことでもお役に立たせていただくべく、さらに積極的に150周年、200周年に向かって取り組んでまいります。

何卒、今後とも変わらぬご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年7月

但陽信用金庫

理事長 桑田 純一郎